

ロータリーは単年度制ですから来年また従来の地区組織に戻るかも知れません。ですが私は次年度の櫻木エレクトにこのことだけは変えないで欲しいとお願いしております。くどい様ですがガバナーとして、クラブの皆さんの理解を得ながら変革を試みようと考えています。研修リーダーにもお願いし、DLPの確立のもと各クラブでそれぞれ、独自に検討、取り組まれているCLP（クラブリーダーシッププラン）の明確化に繋がればと考えています。

この後のクラブ協議会でもCLPの目的と地区におけるDLPの位置づけから何故、今必要なのかなど、ご意見を伺えればと思っております。

1905年の発足以来一世紀を越えるロータリー活動には、時代の変化と共に変わった部分もあると思いますが、変わらぬ原点は職業奉仕にあると考えます。私にとってロータリーとは、自らの職業を通しての倫理運動であり地域社会への貢献を基本に根ざすものであると考えます。定款にも「ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として、奉仕の理念を奨励しこれを育むことにある」と明記されております。

ロータリアンを侍に例えた場合、職業奉仕とは、武士としての象徴を示す刀のような存在と思っています。侍は研鑽を重ね武士となり、帯刀を致しますが但しこの刀は戦（いくさ）の道具では無く、武士としての気構えの象徴です。ロータリアンの持つ刀は、自分を律する気持ち、又は誇りとして、自らの心の中に置いておくべき物でありロータリアンの心に宿る刀はロータリアン同士の厚い信頼関係基づく不可能を可能に変える存在だと思えます。

キーワードは「和して同ぜず」です。“和する”すなわち友となり仲間となることは大変素晴らしいことであり皆で一緒に取り組み大事を成す事は大切です。しかし同時に、“同ぜず”が大切で「他人の意見に惑わされる事無く、自分の意見をしっかり持たねばならない」と考えます。「自らの職業に基づく人としての信頼回復」と「和して同ぜず」の2つをモットーにロータリーの復活による「原点回帰」を次年度テーマに、皆様の御協力のもと地区運営にあたってゆきたいと思えます。

ロータリーは今やっていることだけを未来永劫変えることなく、続けてゆくという考え方から、変わりながら続けてゆく事の大切さを、改めて考えて頂きたいと思えます。ロータリアン同士、職業奉仕を心に携えてゆけば、ロータリーは再び新たな羽根を持ち大空に飛び立てる時が来ると確信しております。

会員増強についてホアン会長は新会員を引き付けつけると共に、現会員を維持し、世界で130万人への会員拡大を目標にされています。会員増強について、会員数の数字だけにこだわり「数は力なりの原則のもと、会員を増やせ増やせとスローガンが掲げられますとすぐさま反発する形で「質」と「量」の議論が発生します。更に悪いのは、質か量かという命題を並べて、出来ない理由を議論し、やらない理屈を語る事です。増強問題は出来ない理由を語るマイナス発想ではなく、まずやろうとするプラス発想からのスタートが大切だと思っています。今年度の増強目標は地区に因んで2790名とし、各クラブに純増1名をお願いいたします。**広報公共イメージ活動**でロータリーがどのような活動をしているのかを地域社会の人々に知ってもらえるよう、「ロータリーデー」を開催して下さることを願っています。

（裏面へ続く）

そこで私たちは、社会貢献という共通意識のもと、互いの絆を深め、時間、才能、資金を注いで活動するグループであることを広報下さい。私たちは「行動の人」であり、同じ目的意識を持つ人たちと協力して、地域社会が直面する問題を解決しようと努めていること、同じ様に地域社会のことを考える人びとを見つけたいと願っていることを伝えることが重要と考えます。にもかかわらず、認知度が低いと感じます。ロータリーが何を目的とし、何をしているかを知らなければ、入会しようという人や、協力しようという人がいないのも当然です。確固とした、好ましい公共イメージは、単にロータリーの気高さを高めるだけで無く、それによって奉仕志向の会員が増え、ロータリーの活動をさらにレベルアップする重要な戦略だと思えます。

青少年奉仕活動について地域の方々及び学校教育機関の協力、顧問教師の方々の思い、御父兄の理解が必要で、信頼関係が無ければ成立しません。インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラ等での四委員会が「ロータリーデー」への参加を通じ、それぞれどの様にして地域社会との融合を保つ参加が可能なのか御検討下さい。

未来のロータリアンを育成しましょう。**米山記念奨学会事業**は日本で学ぶ外国人留学生にロータリアン自身による寄付金を財源とした奨学金を支給する事業で、日本独自の特色である「カウンセラー制度」「世話クラブ制度」が重要であると考えます。クラブとして「世話クラブの登録」「カウンセラー登録」を理解いただき、ぜひ米山記念奨学会への寄付目標である通常寄付と特別寄付の合計で一人15,000円達成をお願いします。

最後にポリオ撲滅に関して1979年に始まったポリオ撲滅運動も35年におよぶ活動で、世界で3ヶ国（パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア）を残すのみとなりました。しかし本年5月5日にWHOはカメルーン、シリアなど非常在国からの発症報告に基づき「緊急事態宣言」を出しました。医師団が内戦に巻き込まれるなど予断を許さない状況でもあり国際的連携と取組みが求められています。当地区では毎年1人あたり25ドルをお願いしております。